

今日から小学一年生！！ ～道川小学校入学式より～

教育委員会だより

第1号

益田市教育委員会より 平成25年5月2日発行



益田まつりに参加しました

教育長 村川 修

4月21日に益田まつりが賑やかに開催されました。

私も初めて益田音頭に参加し、最初は手と足がうまく合わず、何度も間違えながらもだんだん楽しくなりました。

祭りには神事などの「儀式」の意を持つものや、地域住民を集結し、コミュニケーションの向上と地域の発展を願うもの、地域固有の伝統芸能として「文化」や「遊び」で賑わいを創出し、観光にも繋がるなど様々な意義や効用があります。

多くの意義の中に忘れてはならないものがあります。年齢や職域を超えた共通の場であり、地域の連帯感を維持発展させる行事です。また、地域の伝統文化

として毎年繰り返し返すことにより、親から子へ、子から孫へと伝える、世代間の交流と伝統文化の伝承の場です。

このことは、節句行事や各地域に伝わってきた年中行事などにも言えることです。

これらの年中行事などの精神は、感謝、健康、祈願であり大切な役目を果たしていました。この日本伝統の行事が若い世代に伝えられなくなっています。

祭りや年中行事などが廃れていくことにより、失われるのは「日本文化」であり、地域風土の中でよりよく生きるための「心」であると言われています。

地域の行事は変化していても、この「心」とその意義をしっかりと伝える仕組みを、家庭と地域社会があらためて再構築することにより、子どもの成長過程

における人間関係の基盤となる人格形成につながり、現在様々な地域や組織で取組まれている幼児教育、学校教育、地域活動や文化活動などと相まって「ふるさとを愛情をもって語り、地球的視野に立って社会貢献する自立した子ども」に育つていくものと考えています。

「益田音頭」は益田まつりの核であると聞いています。それぞれの地域で子どもに教え、祭りに親子一緒に参加して楽しい益田の行事として、次の世代に伝えていくべきものと考えます。

目次

表紙(学校紹介)	1P
教育長寄稿	2、3P
教育情報	4P
カラフル給食タイム	4P
寄付、寄贈のお礼	

発見！ 驚き！ ふるさと体験・見学バスの旅

中西小学校／内田分校 3・4年

歴史民俗資料館には、子どもたちが初めて目にする道具がたくさんあり、新松館長の話を興味津々で聞いていました。自由見学では、昔の道具の「名前」「使い方」「くふう」などについて調べました。今と比べて不便なこともあるけれど、家族みんなで協力して家の手伝いをしていたことも分かり、昔の暮らしの良さも感じられたようでした。



歴史民俗資料館の見学

戸田小学校 1・2年

雪遊びを計画していましたが、前日に「雪がない」ということが判明し、急きょ191スキー場に場所を移して、雪遊びを行いました。

匹見田舎体験推進協議会の協

力を得て、はじめにかんじき体験を行った後、そり遊びを行いました。戸田は雪が積もることの少ない地域ですので、子どもたちはふだんできない雪遊びに大はしゃぎで、心に残る有意義な体験になりました。



雪遊び

吉田小学校 3年

歴史民俗資料館と萬福寺を見学しました。資料館では、様々な昔の道具を見せていただきながら説明を聞き、湯たんぽに入れた湯を朝の洗顔に使っていた当時の人たちの生活の知恵に触れることができました。また、国指定の重要文化財である萬福寺では、雪舟庭園を始め、630年の歴史を刻んできた本堂を見て、子どもたちはさらに誇り

をもって益田のことを学習することができました。

午後からは匹見小学校で、匹見小の児童と一緒に雪遊びを楽しみました。同じ益田市でありながら、異なった自然環境にある匹見小との交流は、子どもたちにとって忘れられない思い出になりました。最後に訪れた191スキー場。この日は温かい日でしたが、気温は3度。ちなみに海拔800mを越える高さに位置しています。県境を越えてすぐの場所にあります。海抜4mの高さにある吉田小から行き、益田市の高低差や広さを感じることで一日になりました。



益田市内巡りの旅

職員の異動がありました

平成24年4月1日付人事異動による新任職員を紹介します。



- ・教育総務課
 - 課長 大畑 直 ②
 - 課長補佐 寺戸 一弘 ①
 - 主任主事 河合 裕子 ⑨
- ・学校教育課
 - 参事 林 衛 ④
 - 主事 伊駒 亜美 ⑧
- ・文化財課
 - 課長補佐 石田 公 ⑤
- ・主事 岡藤 妃斗未 ⑦
- ・市民学習課
 - 主任主事 鎌谷 直哉 ⑥
- ・人権センター
 - 館長 可部 裕 ③
 - 主任 細川 智行 ⑩
- ・美都分室
 - 室長 大谷 昭次 ⑪
- ・匹見分室
 - 室長 榎田 智宏
 - 室長補佐 河野 敏幸

よろしく申し上げます。

益田市教育協働化推進事業(つらつと子育て)

4月19日に市民学習センターにおいて今年度の地域コーディネーター委嘱状交付式を行いました。下表のように、活動日数やボランティア数も増え、確実に成果を上げていることがわかります。今年度より放課後支援や家庭教育支援(親学プログラム)とも連携して推進していきます。今後も、学校・家庭・地域の有機的な連携によって更なる人づくり・地域づくりにご理解とご協力をよろしくお願いします。

年度	学校支援日数	学校支援ボランティア数	
		実人数	のべ人数
H23	1,901	1,162	9,211
H24	2,713	1,403	14,551

本部	学校名	地域コーディネーター	本部	学校名	地域コーディネーター
益田	益田東中	岡野 啓子 小河 恵美子 石田 和美	西益田	横田中	栗山 裕子 石川 有里
				西益田小	宮崎 真理子 齋藤 裕子
豊川	益田小	岡野 啓子 大谷 久美子	二条	西南中	豊田 実弥生 豊田 和文 宮崎 文恵 西坂 文恵
				桂平小	豊田 実弥生 豊田 美智恵 右田 和文 西坂 利幸
吉田	益田中	豊田 淳恵	美濃	美濃小	宮崎 和文 西坂 利幸
高津	吉田小	佐々木 早苗	小野	小野中・戸田小	堀部 忠作
	吉田南小	八坂 恵美子	中西	中西小・中	豊田 忠作
安田	東陽中	福原 拓夫	都茂	東仙道小	野村 達也 河野 由美子 土佐 由美子
	安田小	福原 拓夫 島田 久子		美都中	野村 達也 河野 敏弘 小原 美智子
鎌手	鎌手小・中	野村 完治	匹見	匹見中	河野 敏弘 寺戸 保人
真砂	真砂小・中	大庭 完 大本 千恵	道川	道川小	渡邊 幸雄 三好 成子 高田 純子

H25年度 地域コーディネーターの皆さん(敬称略)

三宅御土居を後世に伝えるために

三宅御土居跡は政府を兼ねた益田氏の館跡です。平成16年9月30日に居城七尾城跡とあわせて「益田氏城館跡」として国史跡に指定されました。中世の城と館がセットで残る例は、全国的に見ても稀なことであり、大変貴重な史跡です。

益田氏は、平安時代末から約400年間にわたり、益田を本拠に勢力を誇った山陰の有力豪族です。戦国期の戦乱の中で、萩の沖合の見島や博多湾の一部も領有し、水軍も編成して海洋領主としても活躍していました。

三宅御土居の東西には高さ5畝の土塁(防御用の土盛り)が築かれ、その周りは堀や川によって守られています。堀を除く敷地は、東西最大190畝、南北最大110畝で、一町(約100畝)四方が標準とされる一般的な館のほぼ倍の大きさであり、益田氏の力を示すステータスシンボルでもありました。

益田氏が、慶長5年(1600年)の関ヶ原の戦いの後に長門国須佐に移り、三宅御土居と七尾城は廃絶しましたが、江戸時代初め、益田氏の家臣がその跡地に泉光寺を創建し、三宅御土居はその境内地として現代まで守られてきました。

文化財課では、将来的な整備活用のために、平成17年度から三宅御土居跡国指定区域内の公有地化を進めており、その中心部に位置していた泉光寺の移転を経て、現在では周囲の墓地移転に取り組んでいます。

定です。

なお、史跡益田氏城館跡の土地公有地化は、平成25年3月末日現在で、15765.45㎡、国指定面積全体の50.4畝に達しています。

地域固有の歴史を物語る貴重な史跡を、将来にわたって保存し活用するため、学術調査を進めながら整備活用ビジョンについて、検討を進めていくこととしていきます。



おどい広場と東土塁

ふるさと益田の味を給食で、郷土愛を育びメニュー

ふるさとを感じる食材

「ふるさと益田の味」と聞いて、皆さんはどんなメニューを思い浮かべるでしょうか？ 益田市学校給食共同調理場の3月の献立は、コンセプトのひとつとして「卒業」というテーマを設定し、将来的に就職・進学などで益田市を離れた

でも、ずっと益田市を忘れないようにと「ふるさと益田の味」を覚えておいてもらえらるようなメニューをいくつか作成しました。また、学校における指導にもその点を考慮し、「児童・生徒の考えた献立」に地元食材を使用することを



【益田沿岸でとれるわかめ】

わかめの磯の香りを体感

益田市沿岸では海産物が豊富に収穫されていますが、その中でも益田産わかめは香りや味に定評がある食材です。

益田産のわかめは収穫した後そのまま乾燥させるので、海の天然塩がそのまま付着して、体に必要なミネラルを多く摂取することができます。

このわかめ独特の「磯の香り」をたくさん児童・生徒が感じられると共に、益田の食材としてわかめが有名であることとを知ってほしいという点を重きをおいています。

ラーメンに入ったわかめは歯ごたえがありながらも噛むことで更に味が増し、味噌味と

意識した指導を行っています。3月12日の献立では、日本海に面した益田市ならではの「ふるさと」の味を感じてもらえらる

★3月12日の献立
オニオンパン、牛乳、わかめ味噌ラーメン、中華サラダ



献立指導：三保香

鎌手小の児童が考えた献立

の相乗効果でより美味しい「ふるさと益田の味」を届けることができました。ラーメンは人気メニューであることから学校での評価も上々で、ふるさと益田と児童・生徒をつなぐ橋渡しができたと思います。これからも「郷土愛を育むメニュー」を届けていきます。

奇贈、寄付のお礼

図書館へ寄付

・匿名 様

益田市奨学金へ寄付

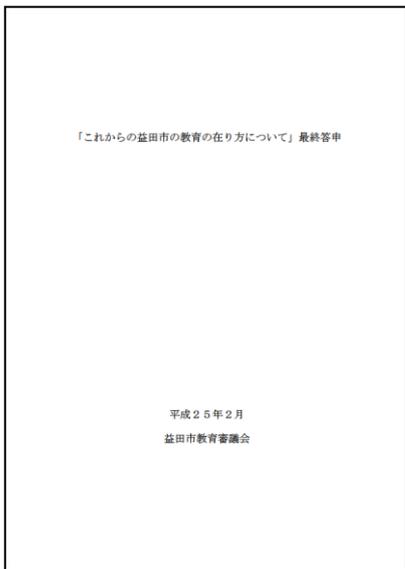
・社会福祉法人 梅寿会 様

・故 西村 甲子雄（中垣内町） 様

・故 潮 順壺（東 町） 様

益田市教育審議会の答申

平成22年9月から今後十年を見据えた益田市の教育の在り方について、益田市教育審議会において審議いただきありがとうございました。2月12日に最終答申をいただきました。今後は、この最終答申に示された目指す子ども像の実現に向け、「益田市教育方針（益田市教育ビジョン）」を策定することとしています。なお、この最終答申は、益田市ホームページに掲載していますので、ご覧ください。



答申の表紙

※答申は益田市ホームページからダウンロードできます。